

静岡県立職業能力開発短期大学校基本計画（案）に対する県民意見への対応について

1 意見募集期間

平成30年2月16日（金）から3月12日（月）までの25日間

2 意見提出状況

7件

	意見	県の考え方
1	<p>○開校時期</p> <p>労働力人口の減少や産業構造の変化といった社会経済環境の変化に対応するために、既存の「県立沼津技術専門学校と県立清水技術専門学校」を「静岡県工科短期大学校[Shizuoka College of Technology]（静岡キャンパス・沼津キャンパス）」に改編する基本計画(案)は、ものづくり県静岡の産業を維持・発展させるための人材育成の基盤となるものであり、早急に実現に向けて進めていただきたい。</p>	<p>本基本計画に沿って、2021年4月の開校を予定しています。</p>
2	<p>○教育の高度化</p> <p>2007年、沼津地域で開催された第39回技能五輪国際大会における日本のメダル獲得数は世界第1位であったが、2017年度(昨年)のメダル獲得数が世界第9位に下落した結果が示すように、現場技術者の技能教育の高度化が必要不可欠な状況である。</p>	<p>常に現場のニーズを把握した教育を実施し、実践的で高度な技術・技能を持った人材を育成していきます。また、企業在職者についてもスキルアップが図れるよう、在職者コースの充実を図ります。</p>
3	<p>○入学志願者の増加</p> <p>高校卒業生総数の約6割が大学進学、約4割が専門学校へ進学の状況は今後も継続すると思われる。現在の専門学校はIT関連、医療・介護関連、料理関連、服飾関連が多数を占めているが、技術専門学校を工科短期大学校に改編して教育内容を高度化することにより工科短期大学校への入学志願の大幅な増加が予測できる。</p>	<p>製造現場の人材を育成する県内教育機関は本校だけであり、定員の変更に柔軟に対応していきます。</p>

	意見	県の考え方
4	<p>○高校生の魅力的な進学先</p> <p>県立工業高校の卒業生の約3割が大学編入学、約7割が就職の進路をとっているが、「工業高校3年+工科短期大学校2年」の有機的な教育課程を作ることにより工業高校の卒業生のみならず普通高校の卒業生にとっても魅力的な進学先になると思われる。</p>	<p>静岡県産業教育審議会からの提言や県工業高等学校長会からの要望でもある工業高校の3年と短期大学校の2年を合わせた5年の教育カリキュラムを実施し、更に高度な技術・技能習得を望む工業高校卒業生の要望に応じていきます。さらに、普通高校生徒に対しても、ものづくりの面白さや楽しさを発信し、多くの若年者が進学したいと思える魅力的な短期大学校を整備していきます。</p>
5	<p>○授業料の減免・奨学金制度</p> <p>入学料・授業料の減免及び奨学金制度は入学志願者確保に効果が大きい。</p>	<p>家庭の経済状況に関わりなく入学できるような授業料の設定や授業料減免制度の導入を検討していきます。また、短期大学校が貸与型奨学金の対象となるよう静岡県育英会に働きかけていきます。さらに、企業や経済界による給付型奨学金制度の支援を検討していきます。</p>
6	<p>○食品関連学科の設置</p> <p>西部のフォトンヴァレー、中部のフーズサイエンスヒルズ、東部のファルマヴァレーとの整合性から、近い将来、食品関連の学科の設置をお願いしたい。</p>	<p>食品関連の学科は、他の都道府県においても職業能力開発短期大学校での設置事例がないことから、全国の動向や企業の採用ニーズ、高校生の進路などを把握し、設置を検討していきます。</p>
7	<p>○短期大学校の運営</p> <p>短期大学校の基本理念を達成するためには、産業界・企業および高校・大学との親密な連携が必須となるので、短期大学校には外部有識者等を構成委員とする「運営諮問会議」を設置して基本理念の実現に向けたPDCAサイクルが機能するように配慮することをお願いしたい。</p>	<p>企業や経済団体等が参画する運営協議会等の設置を検討し、産業界、教育界との連携のもとで適切な運営をし、基本理念の達成に努めていきます。</p>